

連携だより

平成24年

9月号

平成24年9月1日発行

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <http://www.kure-nh.go.jp/>

E-mail renkei@kure-nh.go.jp

消化器合同オープンカンファレンス

日時 平成24年**9月12日(水)** 19:00～

場所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

演題 肝・胆・膵及び上部下部消化管を対象疾患とし、画像診断から手術・病理診断まで担当各科で検討

症例1 術前化学放射線療法後、膵頭十二指腸切除を行った膵頭部癌の一例

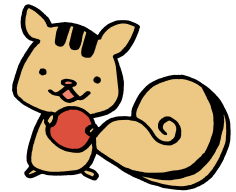
症例2 S状結腸癌による閉塞症例。腸管ステント留置後、腹腔鏡下S状結腸切除の一例



内科オープンカンファレンス

日時 平成24年**9月27日(木)** 19:00～

場所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2



医長講義 「パーキンソン病と関連疾患」

神経内科科長 鳥居 剛

症例1 (仮) 「三回の気胸を繰り返した一例」

救急部医師 木下 晴之

症例2 (仮) 「両肺野に浸潤影をきたした一例」

呼吸器内科医師 北原 良洋

がんサロンのご案内

9月14日(金) 別紙ポスターの通り、「がんサロン」を開催します。



救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者様のご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平日 昼間 8:30～17:15 0823-22-3111

土・日および夜間 17:15～8:30 0823-23-1020

メディカルフェスタ2012のお知らせ

～広げよう 地域とともに 笑顔の医療～

日時: 9月30日(日) 10:00～15:30

場所: 呉医療センター

詳細は、パンフレットをご覧ください。

地域医療研修センター定期講演会のお知らせ

演題および講師

「悪性骨軟部腫瘍に対する診断・治療の現状と展望」

呉医療センター・中国がんセンター
整形外科医師 松尾 俊宏

近年、悪性骨軟部腫瘍に対する効果的な集学的治療、特に系統的化学療法 of 進歩により、有効な患肢温存術が可能になり、予後も著明に改善された。また多くの分子生物学的な解析研究により、新しい診断・治療法が開発されつつある。現在行われている標準治療および日常診療において注意すべきピットフォール、さらに当院にて行っている臨床研究を含めた今後の展望について説明する。

日 時 平成24年**9月19日(水)** 19:00～20:00

場 所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

地域医療研修センターがん医学講演会のお知らせ

演題および講師

「根拠に基づいたがん対策のすすめ方」

大阪大学大学院医学系研究科
社会環境医学講座環境医学教授 祖父江 友孝先生

2006年にがん対策基本法が成立し、2007年にがん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画が策定されて、わが国においても、がん対策を総合的かつ計画的に推進する方向性が示された。2012年6月には、5年経過後の見直しを経て新たな基本計画が閣議決定された。その全体目標としては、「がんによる死亡者の減少（75歳未満のがんの年齢調整死亡率を2005～2015年の10年間で20%減少）」、「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上」に、第3の目標として「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が加えられた。現在、都道府県においても、都道府県がん対策推進計画の見直しが進められている。がん登録、がん検診を中心に、根拠に基づいたがん対策の進め方について概説する。

日 時 平成24年**9月29日(土)** 14:00～15:30

場 所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

褥瘡対策委員会について

皮膚排泄ケア認定看護師 榎 智子

褥瘡とは、寝たり座ったりした時に同一部位に一定時間圧力が加わることによって皮膚がダメージを受け傷ついてしまう状態です。2025年には4人に1人が65歳以上という「超高齢社会」を迎える現代において「褥瘡」は社会的問題となっています。

褥瘡の原因は、

- 自分で寝返りやすわり直しができないなど、いつも同じ場所が圧迫される姿勢が続いている。
- 痛みなどの感覚が鈍い時や感覚がないために苦痛などを伝えられない。
- オムツや下着が尿や便で汚染されていたり汗などで常に皮膚が湿っている。
- 栄養状態が悪い などがあります。

褥瘡の予防は、次の3点が重要となります。

- 除圧・・・定期的に体の向きを変えたりすわり直しをして、同じところが圧迫され続けないようにします。除圧マットや枕を使用することで圧力の軽減がはかれます。
- スキンケア・・・基本は皮膚の清潔・保湿・保護です。皮膚の清潔は、汚れを洗い流し新陳代謝の促進につながります。皮膚の保湿は、乾燥させないために保湿クリームやローションを使用し、皮膚自体の保護機能が低下しないようにすることです。皮膚の保護は、排泄物の接触を防ぐことであり、下着が汗や排泄物で汚染された場合は速やかに交換をすることが大切です。特に高齢者の皮膚は弾力性が低下しており、圧迫やズレなど外部からの刺激に弱いため注意が必要となります。
- 栄養状態の改善・・・バランスのよい食事をとることが大切です。栄養の偏りがある場合は栄養補助食品などを利用することも効果があります。

当院では褥瘡予防と褥瘡治癒を目的に平成14年に褥瘡対策委員会を発足し、院内全体の褥瘡対策の推進と管理を行っています。

褥瘡対策委員会のメンバーは医師（皮膚科医師）、各病棟の看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員、で構成されています。

活動内容は、

- ①褥瘡及び合併する感染の予防と対策
 - ②褥瘡発生危険因子の把握と体圧分散寝具の選択
 - ③院内褥瘡発生状況の把握
 - ④褥瘡回診の実施
 - ・褥瘡委員会での回診 月3回
 - ・皮膚科医師と褥瘡管理者の回診毎週2回
 - ・褥瘡管理者の回診（月～金）
 - ⑤褥瘡対策委員会における勉強会の開催
 - ⑥褥瘡ハンドブックの作成
- を行っています。



褥瘡回診前のカンファレンス風景



院内勉強会



褥瘡処置風景

褥瘡予防、褥瘡の早期治癒は患者さんのQOL（生活の質）の向上のためにも大変重要なこととなります。各委員が褥瘡予防・褥瘡対策の共通認識を持ち、それぞれの専門性を十分に発揮し、「患者の生命および人権を尊重し、生活の質向上のため、褥瘡発生ゼロ・治癒率の向上」を目指して、日々努力しています。

